

議 事 録

会議名	令和3年度第1回寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議		
開催日時	令和3年7月20日(火曜日) 14:00～15:45		
開催場所	寒川町役場 東分庁舎2階 第1会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>出席委員：三澤委員、小西委員、小黒委員、中間委員、菊地委員、稲葉委員、佐藤委員、鳥山委員、高宮委員、福原委員（10名）</p> <p>欠席委員：なし</p> <p>事務局：三橋健康福祉部長 長岡高齢介護課長 仲手川副主幹 北野主任主事、竹花主事</p> <p>社会福祉協議会：浅野生活支援コーディネーター</p> <p>傍聴者数：なし</p>		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活支援体制整備事業について</li> <li>2. 生活支援コーディネーター活動報告</li> <li>3. 寒川町社会資源マップについて</li> <li>4. 生活支援・介護予防サービスについて</li> <li>5. その他</li> </ol>		
決定事項	寒川町社会資源マップ(公園編)の発行を決定。生活支援・介護予防サービスにおけるニーズ調査は継続し、具体化に向けて協議していく。		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由(一部非公開の場合を含む)	
議事の経過	<p>&lt; 議事前段の進行 &gt;</p> <p>○委嘱状交付 三橋健康福祉部長より、各委員へ委嘱状の交付</p> <p>○健康福祉部長あいさつ</p> <p>○委員自己紹介</p> <p>○事務局自己紹介</p> <p>○委員長・副委員長の選出 (委員長) 三澤委員、(副委員長) 中間委員</p>		

- 委員長あいさつ
- 議事録承認委員確認  
小西委員、小黒委員

<ここから議事>

### 議題1 生活支援体制整備事業について

事務局：【資料3を用いて、本事業及び会議について説明】

質疑なし

### 議題2 生活支援コーディネーター活動報告

浅野生活支援コーディネーター（以下「Co」と表記）：【資料4を用いて、令和3年度活動計画および直近の活動について報告】

三澤委員長：このことについて、何か意見や質問などはあるか。住民主体の活動についてコロナ禍からコロナ後を踏まえた検討のなかで、スタートのきっかけをどのようにするか。緊急事態宣言前に神奈川県からは介護施設は面会等の再開に向けた通知があり、ボランティアの受け入れについても含まれていた。自施設では全ての停止はしてこなかったが、直接話をするようなボランティアは控えていた。その方たちは活動に意欲的なので、何をきっかけに再開していけば良いだろうかと思っている。

浅野Co：シニアげんきポイント事業では、10を超える施設のうち4施設が再開、その他は未だ休止している。ワクチン接種が終わればとボランティア従事者の方同士の会話も聞く。施設の事情もある中で、活動再開のタイミングなどを伺っていくことがよいか。

三澤委員長：伺ってもらった方がやりやすい。独自で再開して何かあった際のことを考えるとそう思うが、小西委員はどうか。

小西委員：自施設は受け入れを止めている。ワクチン接種のこ

となど、これからと思うが、外部とのことに関してなど、様々検討しているところ。

三澤委員長：感染者が増えているなか、人を外部から入れてしまうのはどうかという中で、最初に始めてしまって後々にどうかというのはある。

浅野Co：シニア元気ポイントの関係は状況を伺っていく。施設ごとに考え方があってと思うので、同じようにボランティア関連も再開については本当に悩んでいるところ。様子を見ていきたい。

三澤委員長：ボランティア団体としては、再開していききたいか、まだ控えたいところか。

小黒委員：感染症対策あれば少しは安心かとは思いますが、もう少し様子を見た方が良いのかなというところ。

三澤委員長：緊急事態宣言下で人流を動かしてしまうのはいかにかということ、状況をみて考えていかなければいけない。

小西委員：環境を整えば、受け入れも行っていききたいが、その基準は現状、個々に設けているところがある。このことについては行政などともすり合わせを行っていきたい。

三澤委員長：そのとおり町にも中に入れてもらいたい。

### **議題3 寒川町社会資源マップについて**

浅野Co：【資料5を用いて、町社会資源マップについて説明】

三澤委員長：このことについて、何か意見や質問などはあるか。正式な印刷物を初めて見て、見やすいと思う。

稲葉委員：このマップを初めて手にして、公園編ということで、どのように生活支援・介護予防に繋げるのか、どのような視点から見るものかと思っていたが、良いマップだと思った。自分

の行く公園はどこかと見てみると家の近くなどは知っているが、それ以外は全く関わりがなかった。公園ほど地域に密着したものがわかるものはないなと思う。表紙に「見つけよう、出かけよう」とあるが、全てを回ろうということではなくて、自分の地域にある社会資源で、何が出来るかということを考えさせるということで「見つけよう、出かけよう」という意義と捉えると生活支援・介護予防の観点でこのマップを見ていくとまた新たな視点が見えてくるのではと感じられた。

三澤委員長：町は道路や公園の整備などにあまりお金を掛けていない印象がある。地域密着型の公園をもっと利用すべきだと思う。行ってみたいと思わせる、ここまで歩こうとなれば、フレイル予防にもなるし、小さいけど数多く公園があるというのも町の魅力になる。

浅野Co：数も多く、写真を撮って回って、公園ごとに特徴があった。そんな特徴などをマップに記載した。身近に公園があることの気づきや、関心を持っていただける方もいて、高齢の方にお届けするために作成したものだが、親子などの公園を知るきっかけになれば、交流やふれあいが生まれるのかとも思う。

三澤委員長：あとはどのように皆さんに周知するか。委員の皆様にも拡げて頂きたい。

小黒委員：マップにある、家の近所にあるはずの公園がどこにあるだろうと考えたが、車で通ってしまうとなかなか気付けない。歩いて行けば分かるということもあった。

稲葉委員：近所の公園ではシニアクラブの方などがゲートボールをやったりしている。何か活用出来る提案をしていけば、地域の方々が集うようなことになる。そのための仕掛けが必要ではないか。

#### **議題4 生活支援・介護予防サービスについて**

浅野Co：【資料6を用いて、生活支援・介護予防サービスについて説明】

三澤委員長：このことについて、何か意見や質問などはあるか。すきまを埋めるボランティアについては今まで民生委員やケアマネージャーが担ってきた部分でも多少あると思うが、そのあたりをどのようにやっていけるか。法的なところとの絡みもどうか。ケアマネージャーとしてここまでは、というところを担えれば有難いことと思うし、民生委員もなり手が少ない中であれもこれもでは大変ななか、気持ちでやってくれていたことがあればそういったところでも助かるのでは。

鳥山委員：地域によって差がある。委員の間でもそれはやりすぎではということや、やらざるを得ないこともある。民生委員はボランティアの方などへの繋ぎ役と話しているが、多くを担うという感覚が強くて、新たななり手がいなくなってしまう。

浅野Co：そこで手伝ってもらえるものがあればと思う。例えば、通院同行の要望あるが、専門職団体の方の関わりなどがボランティア的に出来ればなど。まだ具体化出来ていないが、確実にある「すきま」の支援を見定めながらやっていきたい。

鳥山委員：見守りの電話に出てもらえないことも多いが、自主防災の話で、自治会をやめてしまった方は民生委員で見なければいけないという。自治会をやめてしまう方は最近多く、これ以上増えては民生委員1人で見られなくなる。町からも収集して、有事の際には要支援でとお願いされているものもある。

三澤委員長：町から出ているのか。以前まではなかったと思うが。民生委員や自治会に出ているのか。

菊地委員：数年前から。近隣市と同じ方式。

鳥山委員：そういったことから対応すべき高齢者が増えていくなかで民生委員のなかでも、問題が発生している。

菊地委員：自治会でも取扱いに困ることがある。

三澤委員長：このような話であれば、この場に福祉課の方にも来てもらってはどうか。

三橋健康福祉部長：同じ健康福祉部内の話。様々な問題が伺えた。

三澤委員長：本当に民生委員はなり手がいなくなってしまう。すきまをどう捉えるかというのはとても難しい。

浅野Co:信頼関係や長年の付き合いがあるゆえに民生委員の方が頼られていて、それをあえてすきま埋めのボランティアにということではないが、本来は負担になっていて頼めるところがあれば助かるということがあれば、うまくバトンタッチをして入っていったら。負担にならない程度の支え合いで、地域ごとのニーズも分かれるなか、ひとつ別にボランティアもあるということが選択肢としてあればと思う。

三澤委員長：加入率高い自治会であれば完結出来るが、そうはいかない地域もある。

菊地委員：すきま埋めは臨時的に必要なものと思う。緊急時に何かあったらアシスト出来る体制というような、そんな便利なことはなかなか難しいのではないか。

小西委員：大家族では子どもが親の面倒をみてきたと思うが、今は同居が少なくなった。そして独居や老夫婦の世帯がどんどん増えている。地域で安心した生活を確保することは、今の介護保険制度、在宅のケアマネージャーが入ってサービス提供するだけでは限界になる。ケアマネージャーが守備範囲外のことに手を出さざるを得ない状況になる。このことは民生委員の方も同じで、それは埋めようがない。すきまのサービスは少しは安心して生活出来るシステムと思うが、独居の方々がうまく地域と付き合い、繋がることで、お互いが助け合うシステムが必要。若い人も含めて包括的なシステムでないといけないと感じる。

三澤委員長：大変難しい課題だが、そういったシステム作りは必要。どのようにするかということ意見を聞きつつやっていたかなければいけない状況。

浅野Co：何でもすきまを埋めると広く考えてしまっていたが、ひとつずつ、トピックを絞って、ニーズの高いことに視点を絞ってやっていくことも必要と感じた。小西委員のいうように高齢者同士でも、包括的な支え合いの視点で考えていかなければと思う。

三澤委員長：その他、何か意見や質問などはあるか。

中間委員：緊急連絡先カードは自治会でも類似のものを作っているところもあると思うが、民生委員の方も何か使っているか。

鳥山委員：高齢者の台帳がある。新規の顔つなぎ、見直しをしている。コロナ禍で出来なかった調査を今秋は行う予定もある。

中間委員：独居の高齢者の方で緊急の際にどうしても連絡先が必要なケースもある。

菊地委員：以前、緊急連絡先を保管するカプセルが普及したが、情報が更新されないということがあった。

### ○その他

浅野Co：次回の会議の日程について、年3回から4回の開催予定だが、次は10月頃になる。1月前には事前に調整する。もう1点、会議体の愛称について検討している。「ほっと」というフレーズを提案したい。「寒川町シニア応援会議」、「寒川町シニア応援団」など、町民の方にどのような会議体なのか伝わるような愛称として、初回の案として挙げたい。また感想、意見伺いたい。

三澤委員長：他で参加している中にも長い名称の会議ある。短

	<p>い方が分かりやすいと思う。その他、高宮委員は初回の会議いかがだったか。</p> <p>高宮委員：支え合いが残っていることを感じた。コロナやワクチンのこともあるが、国の通知では面会等も対策を取って進めていくスタンスかと思われる。最近は働き盛りの若い世代の感染者が増加傾向。もう少し慎重に様子を見ていく必要があるかとも思う。</p> <p>三澤委員長：福原委員は寒川町の現状について何かあるか。</p> <p>福原委員：私としては、地域包括ケアシステムをもう2歩3歩地域のために前進させたい思いでここに赴いているところ。</p> <p><b>(閉会)</b> 副委員長挨拶 中間委員</p>
<p>配付資料</p>	<p>配布資料</p> <p>資料1 寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議委員名簿</p> <p>資料2 寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議設置要綱</p> <p>資料3 第8次寒川町高齢者保健福祉計画（抜粋）</p> <p>資料4 寒川町生活支援コーディネーター 令和3年度活動計画および直近の活動報告について</p> <p>資料5 寒川町社会資源マップ（公園編）</p> <p>資料6 令和3年度に立ち上げていきたい生活支援・介護予防サービスについて</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>小西 謙吾、小黒 スミ子（令和3年8月18日確定）</p>